

はじめること→ 未来

▶序論

▶リーダーたちが知らなければならない3つのことがあります。

①のがしたこと(正確な契約) - イスラエルはどうしてあのようになってしまったのでしょうか。どうしてアメリカ教会は門を閉じているのでしょうか。ヨーロッパ教会はすでに古くからそうであって、いまは韓国教会も門を閉じています。のがしてしまっことはなんでしょう。正確な契約をのがしました。だから、ここまで苦勞しているのです。レムノントだけがこれらを回復することができます。大人の方々には時間がありませんので、皆さんが回復をさせなければなりません。

②奪われたこと(内面回復) - 今度は奪われたことがあります。これが昨日の2講義目のメッセージです。なにを奪われたのでしょうか。内面世界をすべて奪われてしまいました。これを回復しなければなりません。うわべだけのことをずっとやってきたのです。そこで福音を除いてしまいますと仏教に追いつくこともできません。それくらいのレベルです。福音を除いてしまいますと、3団体に追いついていくことができません。3団体はとてもレベルの高い人たちです。そこで3団体が語っているいちばん最初の言葉が何かというと内面世界です。教会は内面世界以上にもっと深いものを持っているのにもかかわらず奪われてしまいました。ですから、当然皆さんが回復しなければなりません。

③始めること - では、3番目です。皆さんがこれから始めていくことがなければなりません。これは未来を指しています。

▶イエウオン教会をここまで建築するには、ただで作られたのではなく設計図がありました。その設計図が正確であればあるほどよく建てることができたのです。もしも設計図なしで誰かが勝手に建てるとしたらどうなるのでしょうか。釜山のインマヌエル教会を建てていく中で、いままで許可が下りていないのには理由があります。あまりにも大きな規模を持って捉えているからです。教会建設の規模をとて大きく捉えて考えていたので、木もたくさん切らなければなりませんし、土地もたくさん開発しなければなりません。そうすると法的に市から許可が下りないといけません。ただ建てるだけなら区庁で許可を出せばよいのですが、インマヌエル教会の場合はボリュームがあまりにも大きいので釜山市から許可をもらわなければなりません。それで少し不可能な状況です。そのため設計図を変えるようにしました。区庁で許可が下りる程度の設計図をいま作っているところです。

▶序論 - RT(時代の主役)

ヨセフはエジプトに行ったときにはっきりとした絵がありました。そのため他の奴隷とは異なっていました。また、監獄に入っても他の囚人とは異なっていたのです。そこでレムナントは単なるレムナントではなく、この時代の主役です。そこで間違いなくこの絵が出てきました。

1) エジプトのわざわい時代(創世記 45 : 1-5)

▶エジプトのわざわいの時代を止めるくらいのレムナントでした。神様はこのように主役として立てました。創世記 45 : 1-5 を見ますと、世界のわざわいを止めたのです。ヨセフはこの絵をあらかじめ持っていました。人生設計図がはっきりとしていたのです。確実でした。皆さんがそうしなければなりません。

2) イスラエルのわざわい時代(出エジプト 3 : 1-20)

▶そして、完全にイスラエルのわざわい時代を止めました。出エジプト 3 : 1-20 です。イスラエルの民は完全に死ぬようになってしまいました。

3) 荒野わざわい時代(申命記 6 : 4-9)

▶今度は荒野の道のりを歩いていくのですが、荒野のわざわい時代を止めました。そして、申命記 6:4-9、荒野のわざわいを止める方法を神様が教えてくださいました。いままであったあなたがたに伝えた契約を次の世代に伝えなさいということです。ここで少し特徴的な表現があります。ただで伝えることなく、あなたの額に、手首にこれを刻みなさいということです。もしもレムナントたちが座る所があるならば、

そこにもこれが分かるように貼り付けなさい。道を通り過ぎながらも見えるように貼り付けなさい。ということなのでしょう。完全な刻印をさせなさいという話です。これが生きる道だという話です。このようにメッセージを与えてくださったのです。

4) ペリシテのわざわい時代(Iサムエル7:1-15)

▶でも、またまた問題が来しました。完全にペリシテのわざわい時代を止めました。この時、Iサムエル7:1-15にミツパ運動が起きます。ミツパ運動のあとにダビテという人物が生まれます。サムエルがしたことの中でいちばん良くしたことはダビテを捜し出したということです。いま私たちがこの世界福音化をしていく中でいちばんよくしていることがあるならば、レムナントである皆さんを捜し出したことです。皆さんの能力と関係なく神様がこの働きをさせてくださいます。確実な絵、確実な設計図がなければなりません。時代ごとにそうでした。

5) アラムのわざわい時代(II列王6:8-24)

▶アラムのわざわい時代を止めました。II列王6:8-24です。これがドタンの町運動です。神様は時代ごとに同じような働きをしてくださいます。

6) バビロンのわざわい時代(エステル4:1-16)

▶バビロンのわざわい時代を止めました。ここではイスラエルのすべての民が死ぬようになってしまいました。この時、神様はエステルという人物を作り出していきます。神様は正確に備え、災いを止められました。

7) ローマのわざわい時代(ローマ16:25-27)

▶ローマのわざわい時代を止めました。パウロはどのようにして会堂に入ったのでしょうか。パウロの働きの主なキーポイントは会堂、それがキーポイントでした。ということは、すでになにをやればいいのかということが分かります。次世代にこの奥義を伝えなければならないためです。神様は皆さんにこの働きによって確実な成就をしてくださると思います。

▶本論 - 3つの時代を開きなさい!今から準備しなさい。

それでは、私たちが持つべき絵です。どんな絵を持つべきでしょうか。どんな設計図を持つべきでしょうか。これから皆さんは、3つの時代を開いていただきたいと思います。神様のみこころです。いまからこれを用意していきませんか遅れます。

1. レムナント時代を開きなさい!

▶神様がいちばん最初に聖書の中でなにを重要視しているかということです。聖書の中で最も重要視している単語です。レムナント時代です。レムナント時代には重要な3つの単語があります。

1) 根運動 - 福音

▶根の運動です。根は福音です。皆さんを通してこの運動をしてほしいということです。どんなに切り倒されても根があれば残るということです。

2) 切り株運動

▶ここから切り株運動が起きます。

3) 新芽運動

▶それで終わるわけではなくて、皆さんを通して新しい芽が吹き出る新しい芽の運動が起きます。

(1) 残りの者(福音回復) - ここで出てきた単語が残りの者で、それは福音を回復した人を指しています。

(2) 残る者(力回復) - 残るものは福音の力の回復です。

(3) 残れる者(文化回復) - 残れる者は、文化をも征服していくので文化を回復することです。

(4) 残す者(次世代回復) - 皆さんを通して残す運動、残す者とは次世代を回復することです。

▶聖書でいちばん重要な単語がレムナントです。これが分からなければ散らされた者という意味が分か

りません。この単語が分からなければ旅人という単語も分からなくなります。また、聖書のこの内容を分かりませんと伝道運動もできなくなります。皆さんは残りの者であり、残る者です。これから当然ながら皆さんは残れる者であり、このようなたくさんのレムナントを残す者です。これが皆さんが持つべき絵です。

▶皆さんがこれから生きる中でいろいろ難しいことがあると思います。でも、その難しい中でこの絵がはっきりとしていますから、この絵を活用していけばよいのです。また、人間関係においてもおかしな人に会うこともあると思います。でも、その関係の中でもこの絵をもって活用していくことです。結局は神様が皆さんを通してこの運動をしようと思っています。それでは、私たちはどのような絵を持ってリーダーとして進むべきでしょうか。

2. 会堂 - RU 時代を開きなさい!

▶神様はどうしてパウロを通して会堂運動をさせたのでしょうか。RU 時代を開きなさいということです。RU はアメリカで始まりましたが、これからはヨーロッパでも始めて行こうと思っています。

1) アメリカ福音化の唯一の道

▶なぜそうするのか。アメリカの福音化の道ではなくて、アメリカ福音化の唯一の道がレムナントだからです。すでに皆さんもご存知です。アメリカ教会は数千個の教会が門を閉じています。いまでも教会はあるけれども、礼拝をまともにささげることができない教会が数千個です。というのは、牧師がいないのです。そして、空いている教会もあります。教会の建物だけが残り空っぽだということです。完全にわざわいです。人が来ません。売ることもできなければ売らないこともできません。ですから、他のおかしな団体がその隙間を狙ってきています。いま大至急、回復しなければなりません。このメッセージを聞いているアメリカのレムナントは、早く起き上がらなければなりません。賢いレムナントの皆さんは、社会生活しながら教会を生かしていかなければなりません。

▶こうしてみると、トランプ大統領がなにをやっても止められないということが一つ生じました。それがなんですか。精神病です。アメリカはいま精神病の時代だと言っても過言ではないほどにひどい状態です。さらに大学の教授も精神病を患っている人が多くなっているのですが、専門性があるのでその部分だけが用いられているような感じです。だから、このアメリカで一番たくさん起きている問題が麻薬問題です。今後世の中はどうなってしまうのでしょうか。皆さんは本当に確実な絵を持ってこの場にいなければなりません。皆さんは確実な絵を持って学校に行かなければなりません。そうすると、全く同じ学生のように見えますが違います。皆さんがこの絵を持っていますと、おかしな人に会ったとしてもおかしくなりません。皆さんがこの絵を持っていれば、悪い人会ったとしても皆さんは悪い目に遭いません。皆さんがこの絵を持って出て行けば、多くの問題があるとしても問題よりも答えが先に見えるはずですよ。

2) ヨーロッパ福音化の唯一の道

▶皆さんご存じのようにヨーロッパ福音化の唯一の道がレムナントです。

3) 韓国福音化の唯一の道

▶また、韓国福音化の唯一の道がレムナントです。ですから、やむを得ず私たちは新しい枠を作らなければなりません。これから皆さんがアメリカを生かそうとすれば、医者になったとしても神学の勉強をしなくてはならないくらいになると思います。なぜなら教会を生かさなければならぬからです。やることなくして神学校でもいいやということで行く。そんな人が牧師になったとしたら教会を生かせると思いますか。あまりにも頭が悪くて一般の学校に行けなかった。神学校しかなくて神学校に行った。そういう感覚の人が牧師になってアメリカを生かせるのでしょうか。違います。皆さんが起きなければなりません。それで私は祈っています。賢いアメリカにいるすべてのレムナントは RU に入学してください。これから枠を変えなければなりません。固定概念、昔の枠を持っていた時代を生かすことはできません。それでただただレムナントが起こされるべきです。では、仕事を2つもやるべきですか。そういう意味ではありません。その話ではありません。牧師になるけれども仕事もする。仕事を2つすべきだという話ではありません。危機を止めていきましようということです。いまあれこれいろいろ計算する時

刻表ではありません。アメリカ、ヨーロッパが完全に崩れてしまいました。ヨーロッパがどれぐらい崩れたかと言いますと、神様の話を一切しません。彼らは霊的な話はしません。ただ食べること、生きることしか語りません。それは動物であって人ではありません。ただ食べて寝て、食べて寝て、それは動物です。霊的な存在が霊的な部分を分からないので、全世界は危機が来るしかありません。聞き取ることもできません。だから、全世界はいま急速にわざわいが押しよせています。

(1)使徒 17：1、聖書でパウロがいちばん重要なメンバーを連れて会堂に入りました。

(2)使徒 18：4、そして、本当に弟子に会った時にも

(3)使徒 19：8-10、パウロを一生助ける弟子に会った時にも、彼らを連れて会堂に入りました。パウロがローマの福音化をする前にとても重要なのが会堂に入ったということです。そして、講堂に入りました。ですから、この部分がとても重要な答えになります。

3. 次 RUTC 時代を開きなさい!

▶3 番目です。皆さんがどんな絵を持ってこれから出発すべきでしょうか。RUTC 時代を開きなさい。

1) いやし運動

▶RUTC 時代はここですべてのことをすることができますが、いちばん急務なことがいやしの運動です。体も心も精神も病んでいて、さらに問題なのは霊的な問題で病んでいます。勉強はすごくできたとしても、その人の体からたましいまで全部病んでいる状態です。それで皆さんがこのいやし運動をどう展開していくのか、皆さんの絵を持たなければなりません。いやし運動は単なる単語ではありません。ヒーリングと最近は言っていますが、誰でも使っている単語です。でも、本当に霊的な部分のいやしは誰でもできることではありません。

2) サミット運動

▶そして、この RUTC 運動というのは重要な部分も多いのですが、特にサミット運動を指しています。皆さんが起き上がって時代をいやしてサミット運動をしていかなければなりません。必ずのがしてはいけない部分です。

3) 重職者運動

▶いまからすべきことは、重職者運動を開いていくことです。

(1)秘密決死隊 - 皆さんはこれから教会を生かしていく秘密決死隊です。

(2)RM - レムナントミニストリー。次の世代を生かす Remnant ministry です。

(3)Holy mason - 皆さんはメイソン戦争をしなければなりません。Holy mason です。この3つの運動をしなければなりません。これが答えです。これはこれ以上、説明しなくてもいいくらい、皆さんが知っている部分だと思います。

▶結論 - 霊的な力

▶皆さんがこれらの運動をしていくために結論として、これらができるために霊的な力がなければなりません。他の力も必要ですが霊的な力が必要です。皆さんが霊的な力を育てていきますと、すべての人々はついてきます。「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります」と言われました。では、そのためにどうすべきなのでしょう。

1) 祈りの課題

▶必ずこれはあるべきだという内容の祈りの課題があるべきです。

2) CVDIP (祈り)

▶いまから皆さんは CVDIP をなんとなく作ってはいけません。完全に祈りで味わえるものでなければなりません。そうすると、必ず成就されるからです。

3) 霊性運動- 24、25、永遠

▶それで完全に皆さんがこれらの内容を握りまして、次はこの時代に霊性運動が必要です。

▶では、皆さんが靈性運動をするということは、なにを言っているのでしょうか。靈的なことが全く分からない人が靈性運動をすることはできません。皆さんがこの靈性運動をする、これを一言でどう言えばよいのでしょうか。靈性運動をするというとき、一番重要な答えがなにかお話をさせていただきます。レムナント 7 人のように皆さんが 24 時の祈りが楽にできれば良いと思います。24 時の祈りができている人は、靈性運動ができると思います。こういう力をいまから蓄えていかなければなりません。皆さんが 24 時の祈りができると、ある日、25 時の答えが出てきます。25 時というのは誰もできない部分なのですができるようになるということです。すると、この靈性運動が継続されていきます。靈性運動が継続される理由は、24 時ができるから 25 時に、そして、永遠というところにまでたどり着くからです。

▶24、25、永遠、この 3 つは、この度のレムナント大会のメッセージです。CVDIP をどのように 24 時でできるのか。25 時はどのようにすることができるのか。永遠に残るものはどうすればいいのかということメッセージさせていただきます。昨年度は CVDIP について、その単語だけを説明しました。今年は賛美も作って完全にこれからは実際的なメッセージに入っていこうと思っています。

▶この内容がなければ靈性運動はできません。レムナント 7 人はどんな場合に出くわしたとしても祈ることができていました。いちばん苦勞した人の名前を挙げなさいと言われたら、みな苦勞をしましたがわたしはヨセフです。ヨセフはどんな場合にも神様とともに集中することができました。この運動ができなければなりません。すると、誰もできないことができるようになります。それが 25 時です。神様と通じたということです。これが永遠ということです。このような靈性運動でなければなりません。

▶では、そうしようとすればいくつかのことを参考にさせていただきたいと思います。

(1) マタイ 16 : 13-20、福音のカラーが重要です。持っている福音がどれだけ重要なかといえば、それによって継続できるかできないかということが左右されます。福音の色がとても重要なのです。

▶ほとんどのクリスチャンはもちろん正しく生きるべきなのですが、だからといって律法主義ではありません。質素に生きるべきなのですが、清貧主義ではありません。敬けんに生きれば良いのですが敬虔主義になるのは違います。この～主義というイズム (ism) がついてしまえば他の意味になります。律法と律法主義はまったく違う意味です。これが問題になるわけです。

▶それで人々が、これが (マタイ 16 : 13-20) とても重要だということを実際には知らずにいます。皆さんがこの部分に対して考えるようになりますと、いろいろなケースで見方が変わってくると思います。私たちはバプテスト、ヨハネではありません。福音の本質の部分をはほとんどのがしてしまっています。その理由はなんですか。皆さんがいままで経験して見て聞いて学んだできた刻印が、福音を薄くさせてしまうのです。

(2) ガラテヤ 2 : 20(理由×)-ガラテヤ 2 : 20 です。私という存在は死にました。

(3) ペリピ 3 : 1-21(他の理由)-では、本当に死んだのか。違います。ペリピ 3 : 1-21。死んだというのは、“滅亡の中にいた創世記 3 章にいる私”は死んだということです。もっと正確に言うと、滅亡するしかなかった私を神は十字架で完了させたということです。それは私の中にキリストがおられるからです。それで理由がありません。なぜなら他の理由があるからです。ヨセフはどんな場合も言い訳はありませんでした。なぜなら本当の理由を持っていたからです。だから、皆さんはこの契約を握ってください。

▶はじまり - 皆さんが今から本当に始めてください。

①深い祈りの時間 - 一日に一度、一週間に一回は深い祈りの時間を設けることです。これを持つことで多くのいやしが起きます。深い祈りの時間がなければなりません。

②24 時祈りの時間 - この深い祈り以上に重要なことは 24 時祈りです。このような段階に至りますと、皆さんは祈りを理解したものになります。皆さんが 24 時祈りができるということは、祈りを正しく理解できたということです。こうすれば全世界を生かすことができます。

▶靈的な力というのは、言葉で説明するのがとても難しいのです。また、靈的な力はどこかへ行って学べるようなものではありません。靈的な力は誰かから教わることもできません。それで皆さんは、神様から直接学ぶことです。それが祈りです。祈りによって無限の神様の力を体験することによって、本人

も知らないうちに変化が起きます。そして、十分に世界を変えることができます。だから、「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります」と言われました。

▶この3つを常に皆さんが持たなければなりません。(深い祈り時間、24 祈り時間、霊的サミット)。すると教会も生かして、この時代を生かすことになるリーダーになります。ある面では皆さんがこの力を持っていますと、学業、学閥などはそんなに重要ではないことが分かるようになります。もちろん皆さんが勉強をたくさんして良いスペックを持つことはとても役に立ちます。しかし、世の中を生かす力がなければ、私たちはその習ったことで何ら影響を与えることができず世の中について行くしかなくなりません。私たちが勉強する理由は、世の中について行くためではありません。勉強ができなければならない理由は、世の中について行くのではなく、世を率いてリードするためです。それが霊的な力です。神様がこの力を皆さんに与えると約束されました。それで本当に残念だなと思うのは、私が人に会った時に一番辛いのが、この人はまったく祈らないのだなと感じてしまうときです。本当に感謝するときは、ああ、この人は祈りの人なのだと感じる時です。これは誰からも得ることはできないし、神様から直接もらうものです。なにごととも思い煩う必要がありません。

▶重要な結論一つ→ WITH、Immanuel、Oneness

皆さんがこの契約を持っていますと重要な結論に至ります。どんな結論が出てきますか。レムナント 7 人を見てどんな結論が出てきますか。私がいつもする話です。世の中を動かしてきた人々です。シャデラク、メシャク、アベデネゴは、私たちは火の中に入っても構いませんと言いました。主が助けてくださる。そして、助けてくださらないとしても結構だということです。この信仰を持って行きなさい。つまり、答えはあってもなくてもいいということです。なぜなら (a) 神様が私とともにおられるからです。WITH。 (b) 神様がインマヌエルとして私とともにおられます。 (c) 神様が Oneness で私とともにおられます。これを握らなければなりません。病気にかかっても関係ありません。なぜなら神様が私とともにおられるからです。私に問題があるとしても大丈夫です。神様が私とともにおられるからです。この確実な信仰を持たなければなりません。これが世の中を生かす道です。そのような人が行く所々、暗やみの勢力は打ち砕かれます。これがまことのリーダーです。文章に禁じられているということを知っていたのに。ただ祈ったわけではありません。どのように祈りましたか。感謝しながら祈りました。これは止められません。それでパウロもなにも心配するなどと言いました。あなたがたの願い事を感謝しながら主に求めなさいと言ったのです。すべての知恵に富む主が、あなたがたの心と思いを守ってくださると言われました。

③霊的サミット→獄中書簡(ピリピ人への手紙を見なさい)

では、霊的サミットになるとどのようになりますか。パウロが書いた獄中書簡を見てください。その中で霊的サミットになった人を多く見ることができます。エペソ人への手紙は、教会に関する記録が多いです。でも、パウロが獄中の中で書きたけれども、いちばん神の多くの奥義が記録されたのがこのピリピ人への手紙です。ピリピ人への手紙には、なにが記録されているのでしょうか。

▶ピリピ 1 章 - パウロはいま監獄に閉じ込められています。それを最高の機会だと見ました。ウィリアム・バークレーという神学者は言いました。パウロが監獄に入っているのは、神様からの特別な恵みだと言いました。また、ある神学者はこのように話しました。パウロが監獄に閉じ込められているのではなく、監獄がパウロに捕えられたと言いました。そうです。2 種類の人が出てきます。パウロが監獄に閉じ込められたということを知って試みに会う人たちがいて、パウロが監獄に閉じ込められたということを知って神のみこころを悟った人がいました。

▶ピリピ 2 章 - 私になぜ苦難がきたのか。ピリピ 2 章です。キリストも苦難にあわされたのではないか。キリストも十字架で苦しみを受けて、万軍の主、万軍の王となられたのではないか。それがピリピ 2 章にかかっている内容です。

▶ピリピ 3 章 - ピリピ 3 章はどんな内容でしょうか。まったく次元が違います。私たちはなにかを自分でたくさんしたと思い込んでいます。違います。私たちがものすごいことを達成したと考えています。違います。パウロはそう言いませんでした。自分がやったことは何一つ無いと言いました。そうだと思います。彼は言いました。私はキリストに発見されたい。つまり、キリストに用いられたいということ

です。キリストの手で捕えられたということに向かって走る。あなたがたが話している成功は、私には
ちりあくたと言いました。これくらいなら霊的サミットです。あなたがたがそれだけ好んでいること、
望んでいること、それはすべて私にとってはちりあくたです。なぜなら私はキリスト・イエスにおいて、
上に召してくださる神の栄冠を得るために走ると言いました。そして、私の国籍はローマの国籍ではな
い。私の国籍は天にあると言いました。止められません。

▶ピリピ 4 章 - ピリピ 4 章にはどんなことが記録されているのでしょうか。私たちの現住所です。私を
強くしてくださる方の中で。監獄の中で書きましたが監獄中ではありません。私を強くしてくださる
方によって、どんなこともできるのです。私を強くしてくださる方によって。私がソウルに住む場合は、
in Seoul と言います。ギリシャ語では εν (エン) と言います。パウロが一番多く使ったキリスト・イエ
スによってと書く時、エン・クライスト、つまり、英語では in Christ です。現住所です。皆さんの現
住所です。私の現住所です。私たちはキリスト・イエスの中にいますので何事も関係ありません。私は、
私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。これがピリピ 4 章です。

▶私はこの告白を見るたびに、本当に霊的サミットだと思います。本当にパウロは世界を変えるほど
の霊的力を持っているのだと思いました。この祝福が皆さんにそのまま伝達されると思います。まこと
に神様に感謝と栄光の拍手をお捧げしたいと思います。全世界に神様の栄光が現されますように。

(祈り)

万軍の主となるイエス・イエスの恵み、すべてのいのちを主管される神の大きな愛、すべての力を克服
できる聖霊の御交わりとが、未来生かしていくリーダーたちの上に、今からとこしえまでいつもともに
ありますように。アーメン。